

TOKYO ZERO

すべてのペットが幸せになれる東京へ

TOKYO ZERO

すべてのペットが幸せになれる東京へ



1万5千年前
人と犬が寄り添って
暮らすようになりました

5千年前
人と猫が寄り添って
暮らすようになりました





**そして現在
成熟した先進国・日本
その首都・東京**



16,650,000

**15歳以下の子どもの数
(2012年)**



21,280,000

国内で飼育されている犬猫の数
(2012年)

222,882

全国の自治体に遺棄された犬猫の数 (2012年)





172,360

全国の自治体で殺処分された犬猫の数 (2012年)



約 7 0 0 匹

**平日毎日、これだけの
数の犬猫が殺されている
(2012年度)**



約1600匹

犬だけで、毎日これだけの数が
販売されている

ペットをとりまく現状を、 知ってください！





2020年
東京オリンピック・パラリンピック
招致活動では「成熟都市」をPR



それまでに、まずは東京を
「動物福祉先進都市」にしたい

そして、不幸な犬猫「ゼロ」を目指します

TOKYO ZERO を実現するために！ 私たちが考える3つの解決策

- Step ① ペット産業適正化のために必要な「8週齢規制」を早期に実現しよう！
- Step ② 捨てられた犬や猫の福祉向上のための「ティアハイム」設立を促そう！
- Step ③ 「保護犬」「保護猫」との出会いを広めよう！

Step 1

ペット産業適正化のために必要な
「8週齢規制」を早期に実現しよう！

幼すぎる子犬たち

「ぬいぐるみ」を、
「衝動買い」させるペットショップ

8週齢は先進国の常識

殺処分ゼロを実現するにはまず、東京において、
①ペット産業適正化のために「8週齢規制」を
早期に実施する必要があります。